

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「わたしも大事 あなたも大事 だれもが主役 みんなでつこう神橋小学校！」
学び合い 高め合い 【知】【体】
つながりあい 【公】【徳】
未来を切り開いていく子ども達 【開】

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

- 主体的・対話的な学び合いを通して身につける、生きて働く(活用できる)知識
- 自己肯定感・自己有用感とともに多様性を認め合う豊かな心
- 体験・ふれあいを通じて育む豊かな感性と、協働的に学ぶ姿勢。

具体化した資質・能力

主体性・・・自ら課題を発見しながら、学習に主体的に取り組む態度
問題解決能力・・・人・もの・ことを使って問題を解決する態度
自己肯定力・・・友達とのかかわりを通して、自己のよさに気づき、友達のよさに気づき、自信をもって生活できる態度

中期取組目標

- ◎子ども達一人ひとりを大切にしながら、「ふれ合い・学び合い・高め合い」を大切に、まちとともに歩む学校にする。
- 主体的・対話的で深い学びを具現化するため、確かな言語能力を身に付け、自分の考えをもつ力、相手の思いを受け止める力、対話により自分の考えを深化させる力などを育み、生きて働く知識を向上させる。
- インクルーシブ教育の視点で、一人ひとりが自己肯定感、自己有用感をもつとともに、学習の楽しさを実感できる授業を推進する。
- 互いの違い、多様性を認め合い、誰もが安心して楽しい学校生活が送れるように、人権教育、特別支援教育の充実を図る。
- ふれあい活動を充実させるとともに、まちの人とのつながりを意識し、豊かな体験を通して、人やまちを愛する心を育てる。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	①全学級にて「学び合いを通して、考えを深化させることのできる児童の育成」を目指し、個を大切に、日々児童が主体的に学ぶ授業改善に取り組んでいく。②重点研究テーマ「算数」の研究を通して、数学的活動の中で見方・考え方を成長させていく。また、ICTの活用を図り、授業改善につなげていく。
担当	重点研推進部

学力向上に関わる本校の状況

本校は、どの教科も市の平均値とほぼ同等か上回っている結果だった。基礎的・基本的な知識は身につくと言え、また、学習に前向きに取り組める児童が多い。
一方「人の話をじっくりと聞くことで、自分の考えがまとまることありますか」という設問において、「そう思う」の割合が、第2学年は、44.6%であるのに比べて、第6学年になると29.1%と1割以上低くなっている。「自分の考えを、あいてに分かるようにつたえようとしていますか」「自分の考えをもって、クラスの友だちと話し合っていると思いますか」という設問も、同様に低下傾向にある。この結果だけでも判断はできないが、考えを「伝える」ことはできるものの、考えを深めたり、整理したりすることに課題があるのではないかと考えることができる。

今年度の目標

重点目標「確かな学力」話し合い活動を大切に、自分の考えを表現したり交流したりすることで考えを深化させていくことのできる授業展開を工夫する。個に応じた学習支援をし、基礎基本の学力の定着を進める。

目標を実現するための具体的行動プラン

重点研究テーマを「学び合いを通して、考えを深化させていくことのできる児童の育成」とし、算数科学習の数学的活動の中で、見方・考え方を成長させていく指導を目指していく。
学習指導要領の主旨を受け、「主体的・対話的な深い学び」の具現化に向けて、児童が主体的に学ぶための授業改善に日々取り組んでいく。各教科において基礎・基本の定着と学び合い、高め合う子どもの育成を図るための授業展開を工夫していくとともに、TT、少人数指導などを積極的に取り入れ、基礎基本の定着を図る。

上半期

下半期

前期に行ってきた実践から身に付いた力、さらに身に付けたい力を共有し、「学び合いを通して、考えを深化させていくことのできる児童の育成」を目指し、授業改善に日々取り組んでいく。また、人々との関わり合いを軸とした探究活動や体験活動を多く取り入れ、豊かな学びの場を提供する。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①研修で積み重ねてきた知識やスキルを学年・学級経営に生かしていけるようブラッシュアップする。 ②だれもが安心して豊かに学校生活を送れるよう互いの違いや多様性を認め合えるような学校風土を人権週間や日常的な取り組みにより作っていく。
担当	道徳部

豊かな心に関わる本校の状況

- 歴史ある学校で、地域の方々は学校教育活動に協力的である。
- 話をよく聞き、学習や活動に熱心に取り組む児童が多いが、自ら考え行動する児童は少ない。
- 他者への思いやりの気持ちを持ち、優しく接することのできる児童が多い。
- 自分のよさを自覚し、自信をもって、それをアピールできる児童は少ない。
- ルールの大切さを認識してはいるが、自分の思いを優先し、守れないことがある。

今年度の目標

- ・全教育活動を通して道徳教育の充実を図る。
- ・子ども一人ひとりの能力に応じた適切な指導や支援のあり方を明確にすることで、だれもが自信をもって生活できるようにする。

目標を実現するための具体的行動プラン

○道徳教育の要となる道徳の時間の指導を通して、子どもが道徳的見方・考え方・感じ方を多様に広げ、自己を深く見つめ、よりよく生きようとする道徳的実践力を身につけられるようにする。
○年1回以上、保護者や地域に道徳授業を公開する。
○懇談会等で児童の実態について話題にし、家庭との共通理解を図る。
○定期的に生活アンケートを行い、学級実態の実態に応じてYPプログラムを実施する。また、結果を共有する。
○ふれあい活動を通して、それぞれの学年が自分の役割を意識して活動し、子ども達の仲間意識や自尊感情を高める。

上半期

下半期

○特別支援教育の充実を図り、子ども一人ひとりの能力に応じた適切な指導や必要な支援を行うことで、豊かな心を育て充実した生活が送れるようにする。
○自閉症スペクトラム等の障害特性を理解するための研修を行い、子ども一人ひとりに応じた指導・支援方法を明らかにしていく。
○ユニバーサルデザインに視点を置いた授業改善や学習環境の整備を図り、だれもが活躍できる授業作りを目指す。
○個別支援学級・一般学級の交流を通して、学びあいながら相互理解を深めたり、社会的適応力を高めたりする。
○外部講師を招いて、自己肯定感を高めるための講習を受け、日頃の教育活動に生かす。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①日々の体育学習の充実を図り、運動を楽しみ、運動に親しむ子の育成を図る。 ②中休みの30分を生かし、児童委員会活動を通して、食育や保健教育、体力づくりの機会を充実させる。
担当	保健・安全部

健やかな体に関わる本校の状況

- (1)本校の状況
○横浜市体力・運動能力調査では、「朝ごはんを毎日食べている」児童の割合が多いが、それ以外の児童が一定数いる。
- 同調査において、「睡眠時間が7時間未満」の児童の割合が男子14.9%女子10.8%となっている。
- 同調査において「体育の授業で目標を意識した学習で「できたりわかったり」することでは、「あまりない」の回答が男子14.9%女子21.6%と女子は平均より7%高くなっている。
- 体育科基本調査(令和5年度)6年生の器械運動の技の通過率はどの技も市の平均を下回っている。

今年度の目標

- 体育の授業改善を図り、学習の中で運動の「する」「見る」「支える」「知る」楽しさを味わい、運動に親しむ態度を養う。
- 生活習慣と健康についての知識を増やし、自らの健康への関心を高める。

目標を実現するための具体的行動プラン

○体育科の授業改善を図るために、体育の授業における悩みを共有し、実技研修・指導法研修を校内で行い、職員の知識及び指導力の向上を推進する。実技研修においては運動の技のポイントを知り、どのような声掛けが児童にとって分かりやすいのか考える。指導法研修においては、単元計画の組み方や毎時間のめあて、児童の思考の流れなどについて体育部が中心となって全職員に伝える。
○「保健だより」での情報発信や「バクバクチャレンジ」の実施を通して、児童に自分の健康状態や生活習慣について振り返る機会を設ける。また、自分の生活習慣の課題を見つけ、解決に向かっていくために必要な知識を学習できるよう、内容の充実を保健・安全部が中心となって行う。
○神橋けんこう会議において本校の課題を話し合い、一人ひとりが健康に対する意識を高めるとともに課題解決をしようとする力を育てていく。

上半期

下半期

○実技研修・指導法研修で得たことの実践報告をし、さらに改善したり深めていったりできるような情報を共有する。
○バクバクチャレンジを積み重ねていくことにより、健康に対する意識を高め、一人ひとりが具体的な目標をもつようになる。
○外部機関と連携を図り、体育での学びを広げたり、新しい運動との出会いの場を設けたりすることで、運動に親しむ態度を養う。